

泰山の古代遺跡探訪記

神奈川の古代遺跡シリーズ 001

神武寺・鷹取山探訪記その1

神武寺裏参道に行く

神武寺・鷹取山探訪記その1	神武寺裏参道に行く	http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-1.pdf
神武寺・鷹取山探訪記その2	神武寺境内は女人禁制地だった！	http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-2.pdf
神武寺・鷹取山探訪記その3	衝撃の神武寺奥の院！	http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-3.pdf
神武寺・鷹取山探訪記その4	尾根上の巨石群	http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-4.pdf
神武寺・鷹取山探訪記その5	鷹取山へ！	http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-5.pdf

26-Mar-2010

Gainendesign Labo. Taizan

Copyright© by Taizan 2010 all rights reserved

586 Takakura Fujisawa-shi Kanagawa-ken Japan 252-0802

Tel/Fax 0466-43-4713 Email taizan@gainendesign.com HP <http://www.gainendesign.com/>

ここ数年、地元神奈川の探訪に明け暮れていると言って過言ではない。神奈川県に生まれ、育ち、今もなお湘南の藤沢に居住している私なのだが、これまでそのあまりの身近さゆえに、地元周辺の探訪がほとんど疎かになっているのではないかと気がついた。

多くの巨石や古代遺跡の愛好家たちがそうであると思うが、まさか「自分のすぐそばには驚くような重要遺構などないのでは…」と思いがちなのも事実なのではなかろうか。

妻の郷里が鹿児島に加世田という、日本地図を見てみるとそれこそ南西の隅に位置づく所なのであるが、そこにも夥しい数の巨石や古代遺跡が眠っている。加世田の話についてはまた別の機会に譲るとして、加世田を最近訪ねた折にふと、「巨石と言えば瀬戸内地方、近畿、岐阜、愛知などをすぐに思い浮かべるが、もしかしたら同じ濃密さで日本全国に巨石遺構は眠っているのではないか」と感じたのである。

要するに、知られていないだけなのだ。見過ごされているだけなのだ。考えてみれば日本全国には岩や石が無尽蔵にある。だから、それらに人的な関わりがあった巨石遺構も数多ある…と見て、まずは地元のさらに詳しい探訪を行う必要があるのではないか。

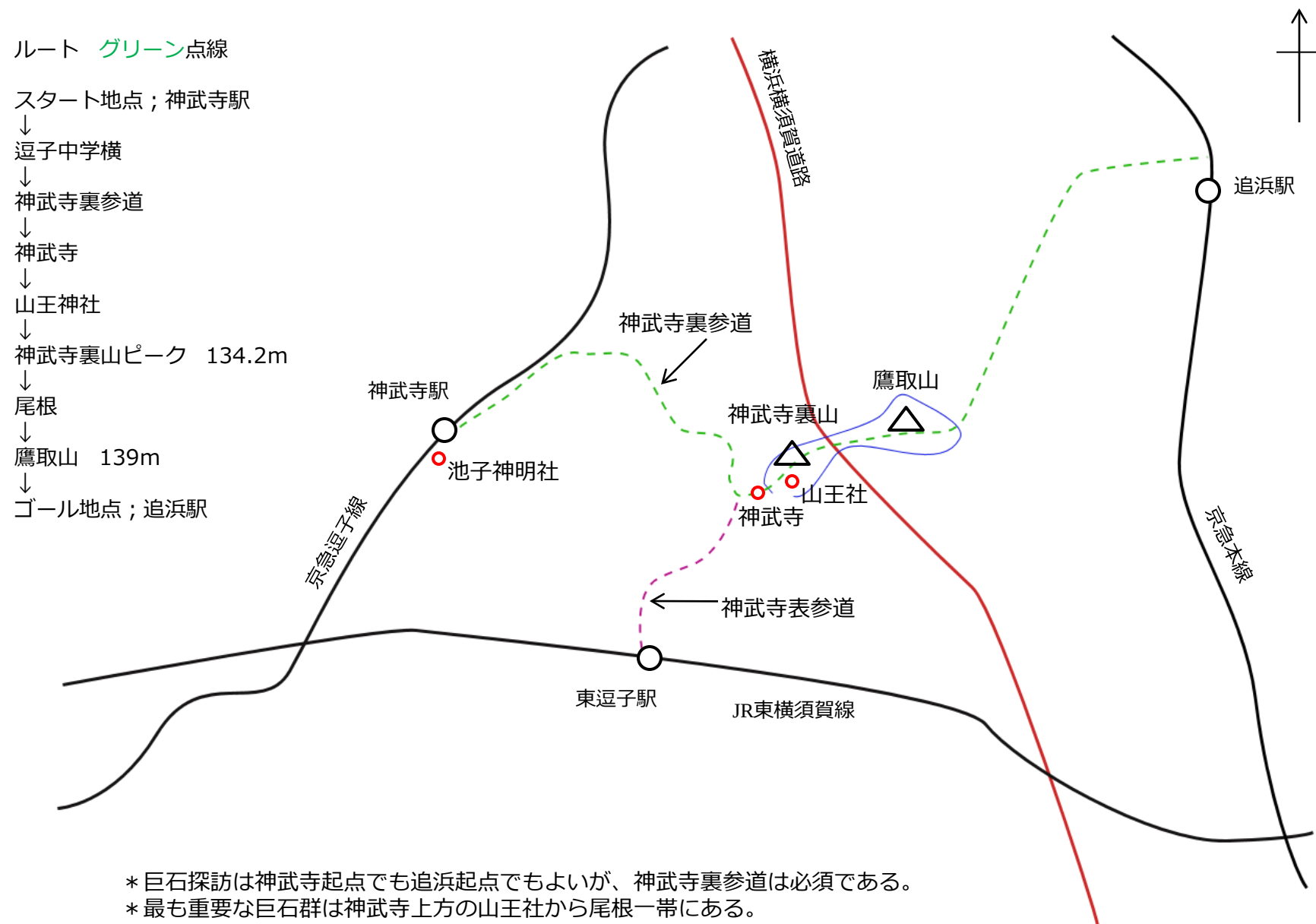
50年以上も世話になった神奈川でもある。そのお礼の意味も含めて探訪記の神奈川シリーズを手掛けようかと思った次第である。

まずとりあえずの初回はハイキングコースとしてつとに有名な「神武寺・鷹取山」を挙げてみたい。このコースは神奈川県三浦半島の付け根にある。後掲の概念図で示すように、鎌倉の東隣、逗子の北東に位置する。京浜急行の逗子線、本線およびJR東横須賀線に挟まれる三角形の中央部分になる。

神奈川県東部は基本的に平野部であるが今回のルートを含む三浦半島には、200m級の低山ではあるが山並みが多く、三浦アルプスなどと称されていて、比較的起伏に富んだ地帯である。三浦半島の先端には観光で名高い城ヶ島があり、最近TV番組でパワースポットとして紹介されたりした走水神社や、御神体石のみが祀られた原初的な安房口神社などもある。

個人的には数十年前に横須賀市の追浜に在住していたことがあり、その後奇しくも日産の研究所勤務時代に追浜（因みにオッパマと読む）に数年通ったことがある。それが20年前。その頃から岩石山である鷹取山の異形な姿は気になって会社の帰りに見に行ったことがある。それと同時期に通勤経路の途中、クルマから毎日見える神武寺駅周辺の巨岩も気がかりであった。本当に近場というのは申し訳ないくらい案外行かないのである。というかいつでも行けるという安堵感が、結局訪ねる機会を損ねている。果たして20年もの歳月を経て改めて探訪することになったわけである。結論的には、この探訪ルートは巨石探究家には是非訪ねてもらいたい高レベルな対象である。地質的には神武寺駅周辺から鷹取山一帯まで同じ岩質の凝灰岩系であるが、そこに人工が加わり、彩色豊かな様相を醸し出している美しい巨石群にめぐり合うことができるはずだ。





京急神武寺駅を降りるとすぐ前に池子神明社がある。御祭神は天照大御神、素戔鳴命、倉稲魂命の他五神。20年前に通勤途中のクルマの中からいつも気になっていた見ていた巨岩。加工痕跡も明らかだ。左端には窟状になった地蔵尊を祀る祠がある。ここから既に神武寺の裏参道は始まっていると言える。池子の住宅街や中学校があるため参道は分断しているように見えるが、実際にコースを歩くとこの巨岩も大いに関係があることが感じられる。



逗子中学校の横を抜けて地域福祉協会施設を過ぎると岩盤を削った神武寺裏参道に入る。



神武寺裏参道周辺の岩質は堆積岩系の凝灰岩で、古代石切場として利用された。
左写真は裏参道途中の石切り場跡。

地域福祉協会施設の奥にせせらぎ盆栽公園があり、そのそばに巨岩を切りだしたところがあった。
いわくありげな磐座と見まごうばかりの巨岩だが周辺の環境から察するにこれは石切り場が風化したもの。

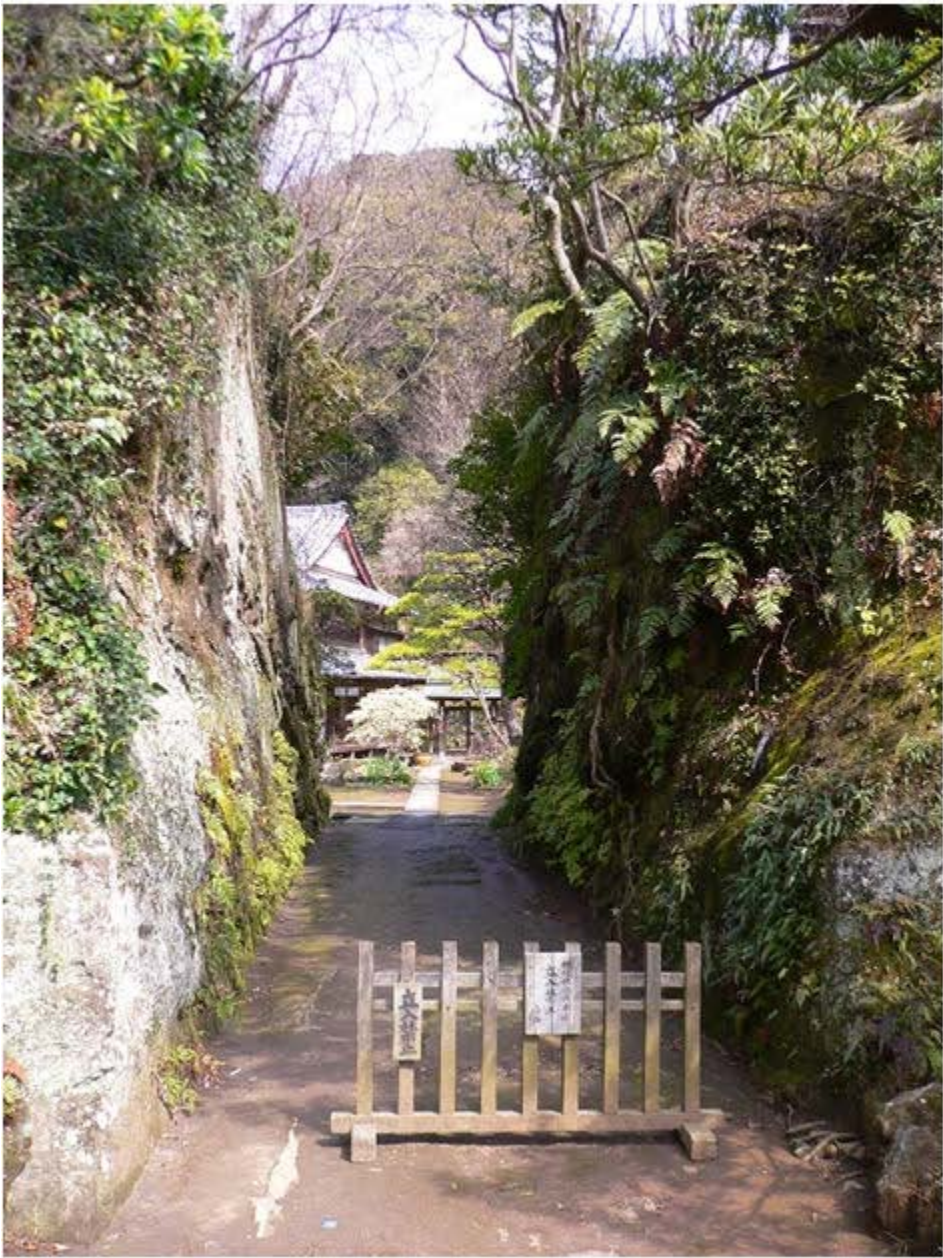


神武寺裏参道は鎌倉や逗子といった海沿いの観光地とは思えぬような、静謐で清々しい山中の探索路となっている。その半分は左写真のように陽光が降り注ぐ道であり、残り半分は巨石が転がる溪谷沿いの道である。この道をのんびりと20～30分ほど神武寺に向かう。



JR東の東逗子駅から登って来る神武寺表参道とここで合流する。右の石は腰かけ石か。ちゃんと設置されている。





岩盤の切通しの向こうに見えるのが神武寺客殿と本殿。関係者以外立ち入りが禁じられている。

最も重要な光景をここから垣間見ることができる。神武寺の屋根の向こうに聳えているのがピラミッド型をした美しい神武寺裏山である。134.2mのピークを神武寺から東北方向に仰ぎ見る形だ。



逗子八景のひとつ；神武寺の晩鐘

←は晩鐘の基盤部にある岩盤





医王山神武寺

【神武寺の歴史】

医王山神武寺は、緑豊かな沼間の山稜に位置し、いまも山岳信仰の面影を伝える古刹です。縁起によれば、その歴史は奈良時代、神亀元年（724年）聖武天皇の命を受けた行基が、この地に十一面観音と釈迦・薬師如来を祀ったことに始まります。

鎌倉時代には、源頼朝をはじめ幕府の厚い崇敬を受けたことが知られ、『吾妻鏡』には、北条政子の安産祈願に際して当寺に神馬を奉納したことや、実朝が参詣した記事を見ることができます。

鎌倉幕府の滅亡以後、関東の動乱のなかでも、多くの人々の信仰や、江戸幕府の寄進を受けて寺勢を保持し、静寂な佇まいを留める天台の聖地です。

【寺域に所在する文化財】

「薬師堂付棟札」（建造物）や、「みろくやぐら」（史跡）など、多くの、文化財が神奈川県及び逗子市の重要文化財として指定されており、その内容は彫刻、工芸品、天然記念物など多岐に及びます。

また、山綾一帯が埋蔵文化財包蔵地（遺跡）「神武寺城郭遺構」（逗子市No73遺跡）として知られています。

平成二十年三月 逗子市教育委員会

- 神武寺・鷹取山探訪記その1 神武寺裏参道に行く
- 神武寺・鷹取山探訪記その2 神武寺境内は女人禁制地だった！
- 神武寺・鷹取山探訪記その3 衝撃の神武寺奥の院！
- 神武寺・鷹取山探訪記その4 尾根上の巨石群
- 神武寺・鷹取山探訪記その5 鷹取山へ！

<http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-1.pdf>
<http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-2.pdf>
<http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-3.pdf>
<http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-4.pdf>
<http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-5.pdf>

その2に続く